

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「徳性・知能・体力」ともにすぐれ、誠実、明朗で友愛と気力に満ちた人物の育成に努めるとともに、生徒一人ひとりの持てる力を最大限に伸ばし、地域に貢献する人材を育て、地域に信頼される学校づくりをめざす。

そのために、

- ①「確かな学力」への取組みを通して、基礎的な力の定着と自ら学び考えることのできる応用力を養成する
- ②「豊かな心」を育む活動を通して、自尊感情を高め、他者を理解し共感できる力を涵養する
- ③「キャリア教育」を全ての教育活動の中で展開することを通して、明確な将来設計を描き、目標に向かって努力し続ける態度を育成する

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と進路実現の支援

(1) 授業力の向上

ア 授業に集中する環境づくりを進める。校内授業見学の充実を図ることにより、教員の授業力を高める

イ 主体的・対話的で深い学びを実現できる授業づくりを進める

※学校教育自己診断生徒項目の学習・授業に関する項目の肯定的評価平均を、73% (28年度) ⇒ 80% (31年度)

(2) カテゴリー制の充実

ア ステップアップコースの一層の充実に向けた「将来構想委員会」での検討結果を生かし、カテゴリー制全体の充実を図る

イ 進路意識の醸成と連動したカテゴリー選択指導を充実させる

※ステップアップコースの大学進学希望者中、より自己の進路実現に向けて一般入試まで努力する生徒の割合を、33% (28年度) ⇒ 40% (31年度)

(3) キャリア教育の推進

ア 進路指導と人権教育をコラボレートした「総合的な学習の時間」を軸に、学年ごとの目標の具体化と検証を進め、3年間を見通した全ての教育活動の中でキャリア教育を展開する

イ カリキュラムの充実・改善と生徒への支援のより一層の充実を図るとともに、必要な教育環境の整備を進める

※学校教育自己診断生徒項目、保護者項目の進路指導に関する項目の肯定的評価平均を、生徒、保護者約83% (28年度) ⇒ ともに85% (31年度)

※学校教育自己診断教職員項目の進路「きめ細かい指導」・「組織連携」関係項目の肯定的評価平均を61% (28年度) ⇒ 70% (31年度)

2 安全で安心な魅力ある学校づくりの推進

(1) 部活動、生徒会活動の活性化と、自主的に規律ある学校生活を送る意識を高める指導

ア 部活動への加入を一層促進するとともに、生徒会主催のボランティア活動の充実を図るなど、生徒の主体性や協調性を育む

イ 遅刻を減らす取組み、着実な清掃活動の推進により、自分たちで規律ある生活を送り学校をよくし後輩に伝えていく意識を育てる

※1、2年生の部活動加入率60% (28年度9月) ⇒ 65% (31年度9月)。登校遅刻数1667 (28年度) ⇒ 1500以下 (31年度)

学校教育自己診断生徒項目「生徒会活動は活発である」の肯定的評価を、63% (28年度) ⇒ 70% (31年度)

生活指導に関する項目の肯定的評価を、73% (28年度) ⇒ 78% (31年度)

(2) 教育相談体制の充実

ア 生徒や保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう、情報の共有や体制づくり、環境整備の充実を図る

※学校教育自己診断生徒項目の教育相談、支援に関する項目の肯定的評価平均を、77% (28年度) ⇒ 82% (31年度)

※学校教育自己診断保護者項目「気軽に相談できる」の肯定的評価平均を、77% (28年度) ⇒ 80%以上 (31年度)

3 学校の組織力向上をめざした取組み

(1) 学校運営改善に向けた方策の具現化

ア 生徒情報を中心とする学校情報の共有と、学年・分掌等の組織間での円滑・有機的な連携を図る

イ 学校運営改善に向けたアクションプランの実効化を図る

※学校教育自己診断教職員項目の診断「組織連携・運営改善」に関する項目の肯定的評価平均を、61% (28年度) ⇒ 66% (31年度)

(2) 経験年数の少ない教員のOJTの推進

ア 若手教育力育成の「さみどり塾」、研究授業の定例化や、「伝え合い・学び合い」の取組みをすすめ世代継承の活性化を図る

※学校教育自己診断教職員項目の診断「経験の少ない教職員育成の体制」に関する項目の肯定的評価を、50% (28年度) ⇒ 60% (31年度)

(3) 中高・高大・地域連携の推進と広報活動の強化

ア 部活動や体育祭、文化祭での参加・交流等による中高・地域連携、大学からの学生派遣(学習支援)等による高大連携を一層前進させる

イ ホームページの更新と、ホームページ等を通じた学校の取組みについての発信を強化する

※学校教育自己診断生徒項目の「授業や部活動などでの校外連携」項目の平均を、51% (28年度) ⇒ 60% (31年度)

同保護者・生徒両項目の「学校のホームページをよく見る」の肯定的評価を、生徒21%、保護者25% (28年度) ⇒ ともに40% (31年度)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 (H28⇒H29)	自己評価
1 確かな学力の育成と進路実現の支援	<p>(1) 授業力の向上 ア 授業に集中する環境づくり イ 主体的・対話的で深い学びを実現できる授業づくり ウ 校内授業見学週間の更なる充実</p> <p>(2) カテゴリー制の充実 ア ステップアップコースの検証とカテゴリー制全体の充実</p> <p>(3) キャリア教育の推進 ア 年間目標の具体化と検証 イ カリキュラムの充実・改善 ウ 生徒への支援の体系化と環境整備</p>	<p>(1) ア 「ベル着」の定着に加え、机上整理等の授業規律の徹底を図る。 ・授業内外での学習方法等、学習スタイルの明確化 ・家庭学習の習慣化、自習室の活用促進等、生徒が自主的に取り組めるような仕掛けづくり イ 各教科・科目の学習の内容と方法の両面から生徒の学びを質的に高める。 ・視聴覚機器、図書館を活用した授業の実践 ウ 校内授業見学週間の活性化(見学しやすい条件整備等)と研究授業や研修の充実を図る。</p> <p>(2) ア カテゴリー制全体の充実・改善を図る。 ・ステップアップコースの効果検証(進学実績等) ・選択科目の見直し(教科横断的な基礎学力の充実方策等、生徒実態に即した新たな戦略) ・理系進学対応の強化</p> <p>(3) ア 生徒が身近な存在をモデルに将来を考えたり、作業を通して進路を考えたりできる教材の蓄積と活用を図る。 イ 進路実現に必要な力について議論を集約しカリキュラムに反映させる。 ウ ・進学講習、資格取得に向けた講習や面接指導等、支援体制の体系化・組織化 ・必要な教育環境整備の充実・改善</p>	<p>(1) アイ 学校教育自己診断(以下、「診断」)【生徒】学習・授業関係項目で肯定的評価(以下、「肯定」)の平均(73%⇒75%)、授業見学(1学期・2学期に実施)・面談の充実 イ 自己申告で全員が目標化、達成状況で80%以上、診断【生徒】「視聴覚機器を使う授業」(51%⇒55%)、診断【教職員】「図書館の活用」(58%⇒60%) ウ 診断【生徒】「他の先生が授業を見る」肯定(65%⇒70%)</p> <p>(2) ア 大学進学で一般入試まで(最後まで)努力する生徒(33%⇒40%) ・9月までに原案完成</p> <p>(3) ア 診断【生徒】【保護者】進路関係項目肯定(生:82%⇒85%、保:84%⇒85%以上) イ (2)ア(9月までに原案完成) ウ (3)アに加え、診断【教職員】進路「きめ細やかな指導」・「組織連携」関係項目肯定の平均(61%⇒65%)</p>	
2 安全で安心な魅力ある学校づくりの推進	<p>(1) 部活動、生徒会活動の活性化、規律ある学校生活 ア 部活動、生徒会活動の活性化 イ 遅刻指導、清掃活動推進</p> <p>(2) 教育相談体制の充実 ア 情報の共有や体制づくり及び環境整備の充実 イ 「いじめ防止」をはじめとする人権教育の充実</p> <p>(3) 交通安全指導、防災教育の充実</p>	<p>(1) ア 部活動加入の促進を図る。 ・勧誘活動、部活動の発信力強化(学校HP等) ・図書委員活動の更なる充実 ・生徒会執行部が主催、活躍する行事の充実 イ 遅刻指導、美化活動の更なる充実を図る。 ・登校遅刻の更なる減少 ・保健委員活動の更なる活性化</p> <p>(2) ア 「生徒支援委員会」の効果的運用を軸に教育相談体制の充実・強化を図る。 ・運用サイクル定着と、運用のための研修実施(「高校生活支援カード」の活用、観察、ケース会議、カウンセリング、個別支援計画作成等) ・教育相談室の活用等、教育相談機能の充実 ・具体的学習支援方策の検討と実現(ユニバーサルデザインに基づく授業等) イ 人権教育の一層の充実を図る。</p> <p>・「いじめ防止委員会」の機能充実 ・いじめ防止アンケート等の活用と対応の充実</p> <p>(3) 交通安全指導、防災避難訓練をはじめとする防災教育の更なる充実を図る。</p>	<p>(1) ア 部活動加入率(60%⇒63%)、1年は65%以上を目標。 HPの定期更新。診断【生徒】「生徒会活動は活発」肯定(63%⇒65%) イ 年間登校遅刻1600以下(H28:1667) 診断【教職員】清掃関係項目肯定(53%⇒60%)</p> <p>(2) ア 診断「相談・支援関係」項目肯定(【生徒】75%以上、【教職員】55%⇒60%)、【保護者】「気軽に先生に相談できる」肯定(77%⇒80%) イ ・診断【生徒】「いじめなどへの対応」肯定(75%⇒78%) ・診断【生徒・保護者】「人権尊重」項目肯定平均(72%⇒75%)</p> <p>(3) 診断【生徒】【保護者】「防災関係」項目肯定(生:77%⇒80%)保:82%⇒85%)</p>	
3 学校の組織力向上をめざした取組み	<p>(1) 学校運営改善に向けた方策の具現化 ア 学校情報の共有と、組織間での円滑・有機的な連携の充実 イ 学校運営改善に向けたアクションプランの実効化</p> <p>(2) 経験年数の少ない教員のOJT推進 ア 「さみどり塾」、研究授業の定例化 イ 世代継承の取組み</p> <p>(3) 中高・高大・地域連携の推進と広報活動の強化 ア 高大連携 イ 中高・地域連携 ウ ホームページの更新、発信強化</p>	<p>(1) ア 全教職員による「報・連・相」の充実 ・指導方針、運営方針の明確化 ・各方針の学年、教科、分掌・委員会間での統一、全体での共通理解 ・個人情報保護の徹底 ・コンプライアンス全般に係る教職員の意識向上 イ 学校運営改善に向けたアクションプランの組織的な推進及び実効化を図る</p> <p>(2) ア 初任者中心に若手教員の年間通した授業力向上の取組み(研修、相互見学、示範授業等) ・世代継承の研修として「さみどり塾」の充実 イ 学校全体で育成を図るため、全教職員が「学ぶこと、伝えること」いずれかを目標化する。</p> <p>(3) 市内小中学校、地域との連携を推進する。 ・生徒会、部活動、行事等での交流の充実 ・オープンキャンパスの充実、参加者の増大 ・広報ビデオや新リーフレット等の充実・作成 ア 高大連携の推進を図る。 (大学生の学習支援派遣、協働プロジェクト、留学生交流、研修依頼等) イ 中高・地域連携の推進を図る。 (インターンシップ受入、授業見学、部活動交流等) ウ 学校情報の発信強化を図る。 ・ホームページのコンテンツ充実、定期更新の定着 ・生徒・保護者への周知(配付物・メール等の活用)</p>	<p>(1) ア 新たな組織体制を始動(4月)体制機能化への見直し(9月まで) ・診断【保護者】【教職員】「個人情報の管理」肯定(保:60%⇒90%、教:34%⇒70%) イ 各アクションプランの進捗・達成状況により評価 アイ 診断【教職員】「組織連携・運営改善」関係項目肯定の平均(61%⇒65%)</p> <p>(2) アイ 診断【教職員】「経験少ない教職員を学校全体で育成する体制」肯定評価(50%⇒55%) イ 自己申告票で全員が目標化、達成状況で80%以上</p> <p>(3) アイ 連携関係の新規事業を少なくとも2つは行う ・学校説明会等への参加者数(508⇒600以上) ・診断【生徒】「授業、行事等を通して校外と交流機会ある」肯定(51%⇒56%) ウ 診断【生徒】【保護者】「学校のHPをよく見る」肯定(生:21%⇒30%、保:25%⇒35%)</p>	